

チェルノブイリから Fukushima

食品の放射能汚染を測り続けて21年 不安に悩む人たちへのメッセージ

2月初旬
発売!

「内部被ばく」こうすれば防げる!

放射能を21年間測り続けた女性市議からのアドバイス

著者 ^{かんど}漢人明子 (小金井市議、「小金井に放射能測定室を作った会」共同代表)
監修 ^{すげのや}菅谷 昭 (長野県松本市長、チェルノブイリ原発事故後5年半ベラルーシで医療活動)
定価 1200円+税
発行 2012年2月10日
文藝春秋 刊

「内部被ばく」
こうすれば
防げる!

放射能を21年間
測り続けた
女性市議からの
アドバイス

- 放射能の正しい測り方
 - 行政・学校の動かし方
 - 危険な食品の見分け方
- 徹底的にわかりやすく
お教えします!

監修：菅谷昭

文藝春秋刊 / 定価(本体 1200円+税)



漢人明子

小金井市議、「小金井に放射能測定室を作った会」共同代表

東京都小金井市では、25年前のチェルノブイリ原発事故を受けて、市民が議会に陳情し、市が食品の放射能測定器を購入。市民による食品の放射能測定が続けられてきた。

昨年3月11日の東日本大震災・福島第一原発の事故による新たな放射能汚染が進行するなか、放射能測定室には様々な質問や不安の声が寄せられている。

放射能との付き合い方を市民感覚からアドバイスする、25のQ&A。

著者プロフィール

1960年生まれ。80年東京学芸大学入学。83年から小金井市の「どろんこ保育所」で働く。86年のチェルノブイリ事故の2年後、市民有志として市議会に放射能測定器購入の陳情書を提出し、2か月後に採択される(最終署名数2000)。「小金井に放射能測定室を作る会」(後に作った会に改名)を発足し、さらに2年半の市との話し合いを経て測定開始。以降、「小金井市放射能測定器運営連絡協議会」として、21年間測定を続けている。

97年、小金井市議会議員に当選。現在4期目。「みどりの未来」運営委員長として日本の緑の党の設立にむけて活動中。